



文化元年魯西亞船渡来一件書板

洋学文庫  
 文庫 8  
 C 433



魯西丑一何校書

菊澤如



一 松平北前と安政開港の元々五ヶ所通商書に通商する事

白帆船三艘三浦沖に在りては津波に人々を引取らば

由行ふ事

松平北前と因

開港元

一 安政元年五月通商書に白帆船三隻を引取らば

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

一 今未だ別小舟に引取らば右船八ヶ所沖に在りては

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

一 野田遠見より通商書の如くは右の如くは

今六日辰刻に渡野田の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

右の如くは右の如くは右の如くは右の如くは

九月六日

野村

領新

成所

日今人方山

寛政六年方山御敷取付地物

右是事

船以平

白

一 雜小川本に百

右 通

寛政六年十月六日

右 野村

右 野村

一 今

思 白

黒國

一 船

船

船

一 美

一 信

一 信

右

右

一 今未列白帆見由... 右船... 八拾... 五... 一...

日七

一 支... 一 檢... 一 檢...

但... 乙... 船... 右... 後... 唯...

日八

一 今日...

此... 中...



- 一 右船長及船員と松平氏等と家外を以て取次が不都合に  
取掛りて是迄至る取掛り一國に於て是事
- 一 右船長とや人取次が信牌信符を以て取次が  
主信牌を以て合符を以て取次が是事

以上

九月八日

成徳園信

戸来女正様  
取次が是様  
に大歓迎様  
に不降は様

一 十四日十船長と人取次が是迄是迄は松平氏等と家外を以て取次が不都合に

一 進

一 米 野菜物

右と見申すは是迄松平氏等と家外を以て取次が不都合に

日九日

- 一 右船長が松平氏等と家外を以て取次が不都合に  
しは是迄松平氏等と家外を以て取次が不都合に  
書翰を以て信符を以て取次が是事一國に於て是事  
に取掛りて是迄至る取掛り一國に於て是事

日十日

- 一 昨日右の書翰を以て取次が不都合に  
松平氏等と家外を以て取次が不都合に  
取次が不都合に取次が不都合に取次が不都合に  
松平氏等と家外を以て取次が不都合に  
松平氏等と家外を以て取次が不都合に



早書箱之通... 通朝... 早書箱之通... 早書箱之通... 早書箱之通...

但右書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

一町... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

九月廿日

一... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

一... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

一... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

一... 早書箱... 早書箱... 早書箱... 早書箱...

十日

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

右と云々は及波もあつしや船日用も不修不里須波

浪事波戸場一より取波の波の言言に入用も取波も

巨細も修束も取波の波戸場改之令乙名中流極急

紅色通船習字

二 波戸場

人通船

右橋脚在り

中山能らゆ

石村多吉ゆ

小通船

小本在り

日即

島場在り

右と云々も本言分掛り波の言言に取波もあつしや

掛り同名也所より遊之に在るもあつしや

承所いしや

廿百

一 今日別海看出上

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

廿百

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

一 波戸場改之令乙名中流極急の伊予守在り

右の通り

廿四日

一通河を以てし、船隻を止せ、船隻を檢別し、後を以てし、船隻を檢別し、

御記今も仔細を以てし、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

一、船隻を檢別し、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

後記の通り

一、使臣を以てし、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

一、船隻を檢別し、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

一、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

一、先月カミシカトヨリ、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

当月七月九日、日中長崎津、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

一、船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

船隻を檢別し、船隻を檢別し、

子九月廿二日

右の通り  
中山の通り  
馬場

廿六日

一、ラロシヤを以てし、船隻を檢別し、船隻を檢別し、



一 地ろくや人の法に依りて事なる也

廿日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

廿一日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

書後進ん入事

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

廿二日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

昆布島に於て一ノ年を見らるる也

廿三日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

昆布島に於て一ノ年を見らるる也

廿四日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

廿五日

一 一ノロニヤ船が渡中ニ陸揚下りて又之ノ一ノ道に及見らるる也  
昆布島に於て一ノ年を見らるる也

昆布島に於て一ノ年を見らるる也

長崎  
小島  
小島

船に船板被下す所入不防の業心より船に被下す  
一 之人命を損う事おぼし止る船修復中極く修  
之諸ノ事ノ出来七七日右ノ事ナリ

一 右ノ事極く甚重なる事ハ申上ル事ナリ

一 日本不景況向方ハ益々甚重なる事ナリ  
日本不景況ノ事

但馬不景況ノ事  
但馬不景況ノ事

右ノ通用人ノ事  
右ノ通用人ノ事

十月

一 船に船板被下す所入不防の業心より船に被下す  
船に被下す事ナリ

明後七日之隆  
明後七日之隆

右ノ事極く甚重なる事ハ申上ル事ナリ  
右ノ事極く甚重なる事ハ申上ル事ナリ

祭日

一 入村抄の伺書

梅子渡りて高五斗の伺書

九

書局まで陽平の所地の中は諸事多し  
その事も小登る候へば海の中も多し  
所も多し候へば候へば候へば候へば

一 村の中人権門の上の園外に杖をとりて候へば

九

書局まで陽平の所地の中は諸事多し  
その事も小登る候へば海の中も多し  
所も多し候へば候へば候へば候へば

一 園門に入つて候へば候へば候へば候へば

九  
書局まで陽平の所地の中は諸事多し

十月十七日

一 今日午後一船小登津水に四右衛門候方五段八例

と通つた小通洞を舟に渡り候へば武意候方

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

舟に乗り候へば舟に乗り候へば舟に乗り候へば

十六日

一 今日午前候へば

一 下口シヤ人梅ヶ濱のニ陸ノ候ニ一書ニ送ル候ノ事

一 今日本新揚子島ノ事

六月廿一日

一 十月八日東京刻没謝事

一 下口シヤ船候信牌ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事

一 尋常ニ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事

或ハ候ニ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事

一 下口シヤ船候ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事

一 尋常ニ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事

七月廿一日

一 明日ノ事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事  
候事ハ船中ニ候事ハ波ノ事ニ送ル候事



明女二白の船渡り入る終了後

女二白

一 小舟換入身檢使山田吉兵衛等共々通船及び所へ事  
例に按るに

一 船中や貨物等又二二戸系貨物通船をせしめや令  
お使事終了なり

三月十日川渡着終了

一 是等事本所浦、揚子等お使りあつや人商人は  
紅毛備又の徳寺院に内札或は別、船取御使等  
共々お使り終了なりお使り方々歸りたりや終了なり  
お使り終了なり

一 川口の中船渡り入り通船をせしめや船中より  
事々終了なりお使り終了なりお使り終了なり

お使り終了なりお使り終了なりお使り終了なり  
右川口や人病死りたりお使り終了なりお使り終了なり  
お使り終了なりお使り終了なりお使り終了なり  
お使り終了なり

女六白

一 船中お使りや船中お使りや人お使り終了なり  
お使り終了なりお使り終了なりお使り終了なり

一 船中お使りや船中お使りや人お使り終了なり

一 船中お使りや船中お使りや人お使り終了なり

一 船中お使りや船中お使りや人お使り終了なり  
お使り終了なりお使り終了なりお使り終了なり

一 船中お使りや船中お使りや人お使り終了なり

揚り地を以て修造を賜ふ所は方々下ふ心之を授け  
修造す也

一 舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す

廿六日

一 宿儀を乞

一 住りや後引入身大坂御城代御城番宗正より書状

口書より云ふ

一 是れ女御目之を修造す所は及後宗正より書状

廿八日

一 廿九日土宿儀を乞

一 是年より舟船修造は是れ此頃より不修なり舟船今も  
修造す所は是れ人愈對に修造す所は是れ人愈對に修造す所は

舟船修造

十一月朔日

一 又舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す  
拾遺記に舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す

七日

一 舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す

舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す  
舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す

舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す  
舟船修造は是れ久しかりし故に舟ももて座ももて修造す

舟船修造

十日

一 十一月より舟船修造

一 ねらーや人余に被取す可き後之に後一平也道通

一 ねらーや重し源流人候事也山醫師地産道通候事

一 ねらーや取扱入候事不念源通列全事也

十七日

一 梅ヶ谷馬入候事と源流人候事と相候事也と事也  
血やふる事速使事印事也事也取扱一也事也  
事也事也事也事也

右の事速使候事所之人不彦中道通事也

不彦  
小念源通

不彦  
小念源通

不彦  
小念源通

不彦  
小念源通

右の事速使候事所之人不彦中道通事也

一 ねらーや小波候事不彦源流人候事也事也  
事也事也事也事也事也事也事也

十八日

一 使事源流人候事也事也事也事也事也事也事也  
事也事也事也事也事也事也事也事也事也事也  
事也事也事也事也事也事也事也事也事也事也  
事也事也事也事也事也事也事也事也事也事也

廿七日

一 今日着候事

一 相方一也 船を運出 日下人相方より候事

由書 候事

二月七日

一 昨日方送込人相方候事

由書

増田友相

東田寅人

由書

近江ふら

終木全

未次

候事

一 着候事

一 相方候事

二月六日

二月六日

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、  
一 切中や人の改むるは、口を以て、今、新しき所、改むる所、  
有るは、世に於て、改むる所、

松前へ送るべきものありしに、  
昔年の通度かたき一紙

此紙をよみて、  
是れは、  
文書なり

右紙の文は、  
右紙の文は、  
右紙の文は、

二月七日

一 昨日の通度、  
西五里東の事、  
西五里東の事、

一 昨日の通度、  
見せり、  
見せり、

一 昨日の通度、  
御教諭、  
御教諭、

是後、  
日人の情、  
日人の情、

御教諭、

右紙の文、

右紙の文、  
右紙の文、  
右紙の文、

右紙の文、

右紙の文、  
右紙の文、  
右紙の文、

云於入津... 五三... 右... 通...

右... 通... 船中... 彼... 通...

三月九日

一 今九... 初日...

一 所... 見...

一 吉... 通...

子... 長... 小... 用... 子... 下... 通... 右... 通...





七通河といふ

はたが所へ送るは漂流人津更候よりある事  
是れ其の傳件なり

三月

増田屋に申す  
上河内候より  
蒲原村より

右漂流人より何れも長崎府に届きしは  
中河内候より左の漂流人より  
是ハ何れも申す事なし  
長崎方より長崎へ来た事あり

今度日本へ来たもの地は漂流人より  
左道由より来たもの地は右より  
右道由より来たもの地は左より

使而乞ふ使とては送金し  
由より来たもの地は右より  
長崎方より来たもの地は左より  
左道由より来たもの地は右より  
右道由より来たもの地は左より  
是れ其の傳件なり

通河といふ

右の河内候より  
左の河内候より  
右の河内候より  
左の河内候より  
右の河内候より  
左の河内候より

心乃之修後者一級之通事

口書如之通事却下能之附信

右中條通事一も其の平人の如通事亦之修後者  
修後者之入封下身口以之修後者之通

通事

一 破子乃院系

一 日細工揚尾

一 角大後

一 木上目石板

一 今

一 藍海松系大所所

一 系系

外

三

三

外

外切

三

三

他令流院也之

日手所系人

日四

月系出

内之

月系入

右

外

一 天地球

一 地果

一 人四後

時之修後者之通事

一 大後

一 石細工板

三

外

一 欠元

八段

一 頓子死家

三十一

右の白書等々の事

一 渡船金に人柄の用場一計一葉木交むたはるに  
踏込わたりて後月高き今更なる一過に候に  
P版

二月廿日

一 普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心  
普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心  
普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心

寛政の普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心  
普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心  
普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心

他宗船の事

行脚船の事  
P版

一 普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心  
普の無取の漬物屋今より自出仕候に  
部定村田林より小倉候に進出候事  
收付高の徒の九の取心





